

精神科医療機関・地域事業所におけるリハビリ志向活動の

現状と課題、展望に関するアンケート調査の報告

1. この調査の意義と目的、趣旨

特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構・コンボでは、「精神障害をもつ人たちが主体的に生きていくことができる社会のしくみを作りたい」を使命に活動をしていますが、その中で、「リハビリ」の概念を大切にし、また、リハビリ志向活動・サービスの普及に関する取り組みも行ってきました。

今回、精神科医療機関・地域事業所におけるリハビリ志向活動の現状と課題、展望に関する調査を実施させていただき、精神障害がある人のリハビリの実現に向けて何ができるのか、また、障壁になっていることなどをお伺いしました。

当法人が発行しているメンタルヘルス啓発誌『こころの元気+』は、精神障害のある方やそのご家族の声や経験などを発信するとともに、リハビリに役立つ取り組みについても当事者の視点で情報を提供しています。『こころの元気+』を精神科医療機関・地域事業所においてグループで活用していただくなど、リハビリ志向の活動や文化を浸透させることに役立つことができないかと考え、その可能性についても今回の調査でお伺いしました。また、発行から 1 年経過した『こころの元気+』電子版への期待についても、お聞きしました。

2. 調査の対象と方法

1) 調査対象

全国の精神科病院や精神科診療所などの医療機関、精神障害のある方を主な支援対象としている地域活動支援センターや就労継続支援事業所などの通所施設を、今回の調査対象としました。これまで当法人がご連絡をさせていただいている機関や施設に依頼をさせていただきました。

- ・ 医療機関（精神科病院：1,722 件、精神科診療所：1,482 件、計 3,204 件）
- ・ 地域事業所（地域活動支援センター：452 件、就労継続支援・地域移行支援など通所事業所：1,723 件、計 2,175 件）

2) 調査方法

自記式調査票（A4 で 4 頁）を用いた、郵送調査で実施しました。調査内容は同じですが、医療機関と地域事業所とで部署の名称などが異なるため、それぞれ専用の調査票を準備しました。

調査票を送付する調査用封筒には、紙媒体の啓発冊子のサンプルを同封し、リハビリ志向活動の現状と課題、また、啓発冊子へのニーズと活用方法・活用可能性に関するアンケート調査を行いました。

調査時期は、2022 年 1 月に調査票を発送し、回収を行いました。

3) 集計方法

この調査は、精神科医療機関と精神障害がある方を主な対象とした地域事業所を対象に行っています。基本的な集計と分析は、精神科医療機関と地域事業所のクロス集計で行いました。

3. 調査結果の概要

1) 調査の回収状況

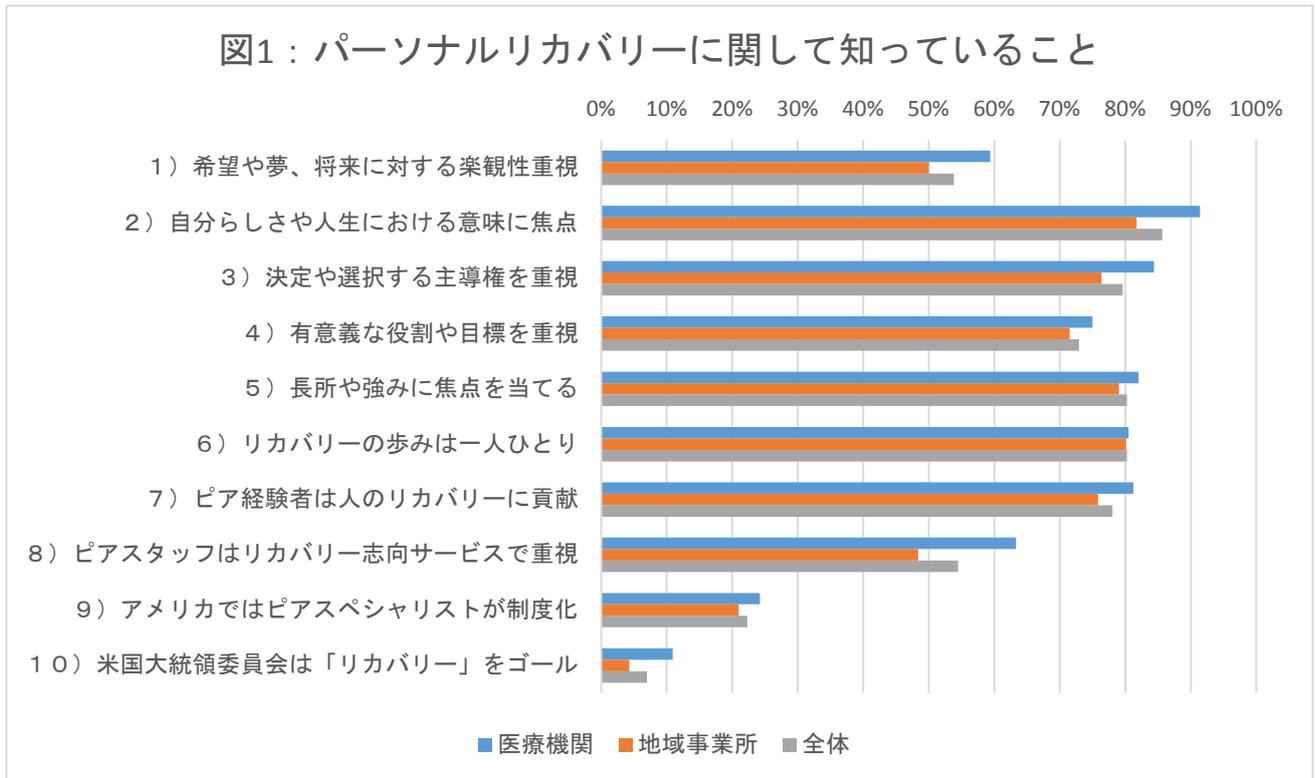
精神科医療機関 128 件（回収率 4.0%）、地域事業所 186 件（回収率 8.6%）、合計 314 件（回収率 5.8%）でした（表 1）。

表 1 調査の回収状況

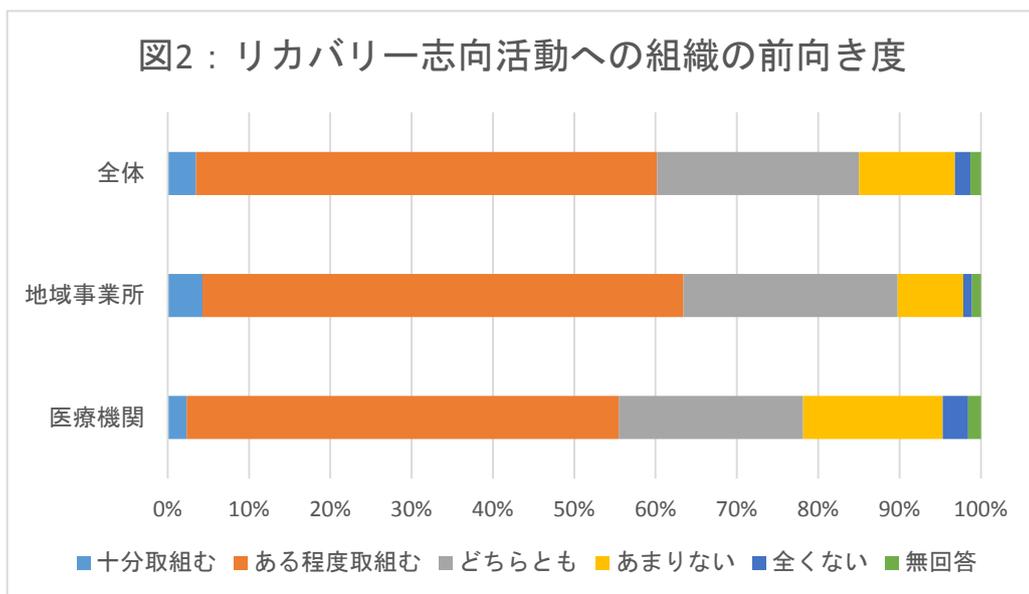
| | 医療機関 | | 地域事業所 | | 全体 | |
|---------------------|------|---------|-------|---------|------|---------|
| 発送数 | 施設数 | | 施設数 | | 施設数 | |
| 精神科病院 | 1722 | | | | 1722 | |
| 精神科診療所 | 1482 | | | | 1482 | |
| (小計) 医療機関 | 3204 | | | | 3204 | |
| 地域活動支援センター | | | 452 | | 452 | |
| 就労継続支援・就労移行支援など通所施設 | | | 1723 | | 1723 | |
| (小計) 地域事業所 | | | 2175 | | 2175 | |
| 総計 | 3204 | | 2175 | | 5379 | |
| 回収数 | n | 回収率 (%) | n | 回収率 (%) | n | 回収率 (%) |
| 精神科病院 | 92 | 5.3 | | | 92 | 5.3 |
| 精神科診療所 | 29 | 2.0 | | | 29 | 2.0 |
| 無回答 | 7 | | | | 7 | |
| (小計) 医療機関 | 128 | 4.0 | | | 128 | 4.0 |
| (小計) 地域事業所 | | | 186 | 8.6 | 186 | 8.6 |
| 総計 | 128 | 4.0 | 186 | 8.6 | 314 | 5.8 |

2) リカバリーに対する認知、組織の前向き度、組織的取組みで重要なこと

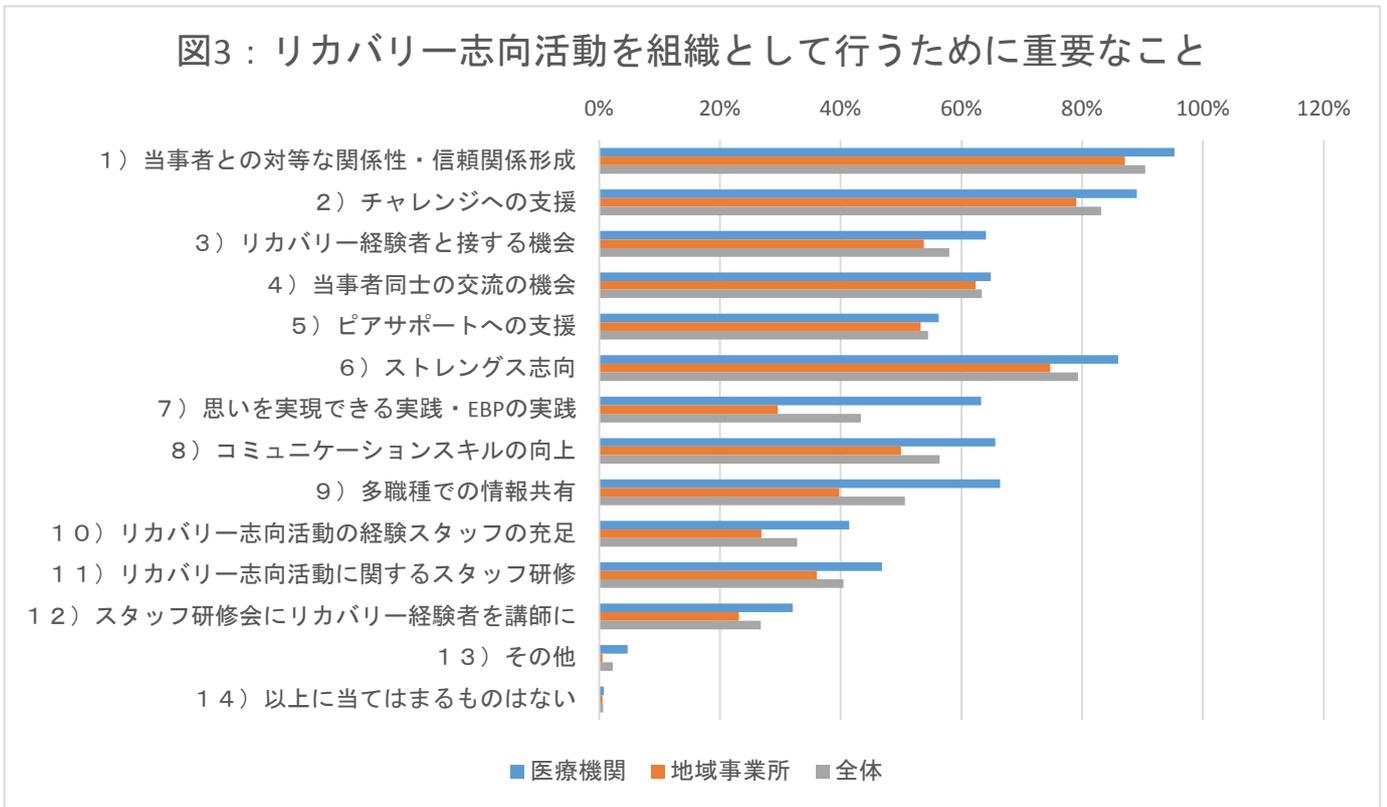
- ・ パーソナルリカバリーに関して知っていること：アンケートに回答くださったご担当の方々の認識は、図1に示すように良好な結果でありました。



- ・ リカバリー志向活動への組織の前向き度については、半数以上が「十分取組む」「ある程度取組む」を選択されていました（図2）



- リカバリー志向活動を組織として行うために重要なこととしては、「1 精神障害のある当事者との対等な関係性・信頼関係の形成（全体 90.4%）」、「3 精神障害のある当事者それぞれのチャレンジへの支援（全体 83.1%）」、「2 ストレngth志向、利用者の良いところ目に向けての支援に力を入れる（全体 79.3%）」が地域事業所、精神科医療機関ともに多く挙げられていました（図3）。精神科医療機関が相対的に多い項目は、「9 多職種での情報共有」「7 当事者本人の思いを実現できる実践を行う、科学的根拠（EBP）に基づく実践の実施」となりました。



- リカバリー志向活動・サービスの要素として重要な6項目について、担当者が所属している組織全体の取組みを、「大いに力を入れる（4点）」「ある程度力を入れる（3点）」「多少は取り組む（2点）」「全く力を入れていない（1点）」として評価していただき、その平均値を計算しました（図4）。「ある程度力を入れる（3点）」「多少は取り組む（2点）」という状況にある組織が多いと言えるでしょう。

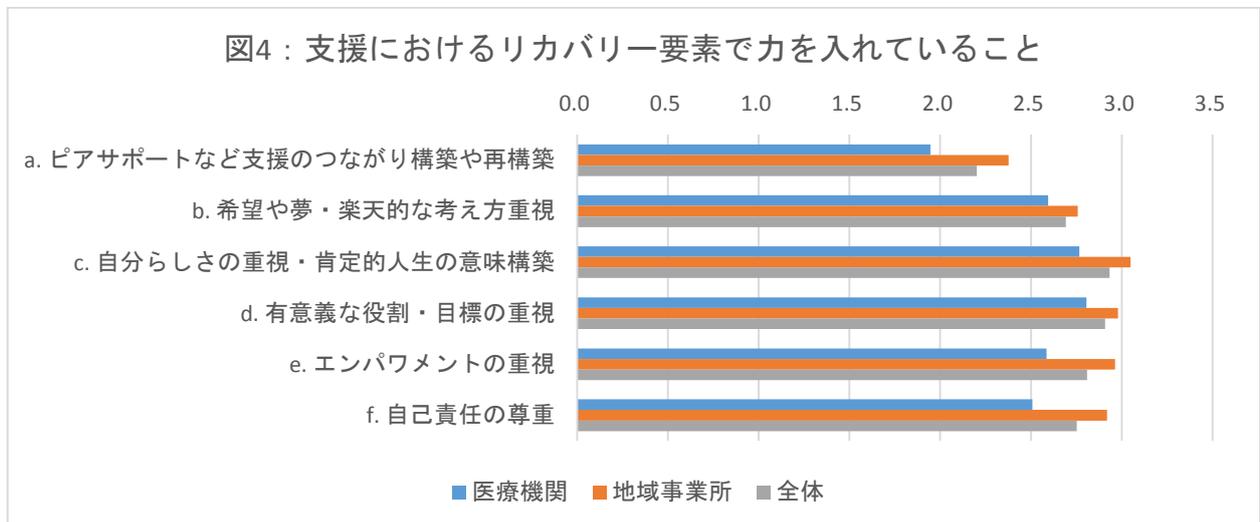
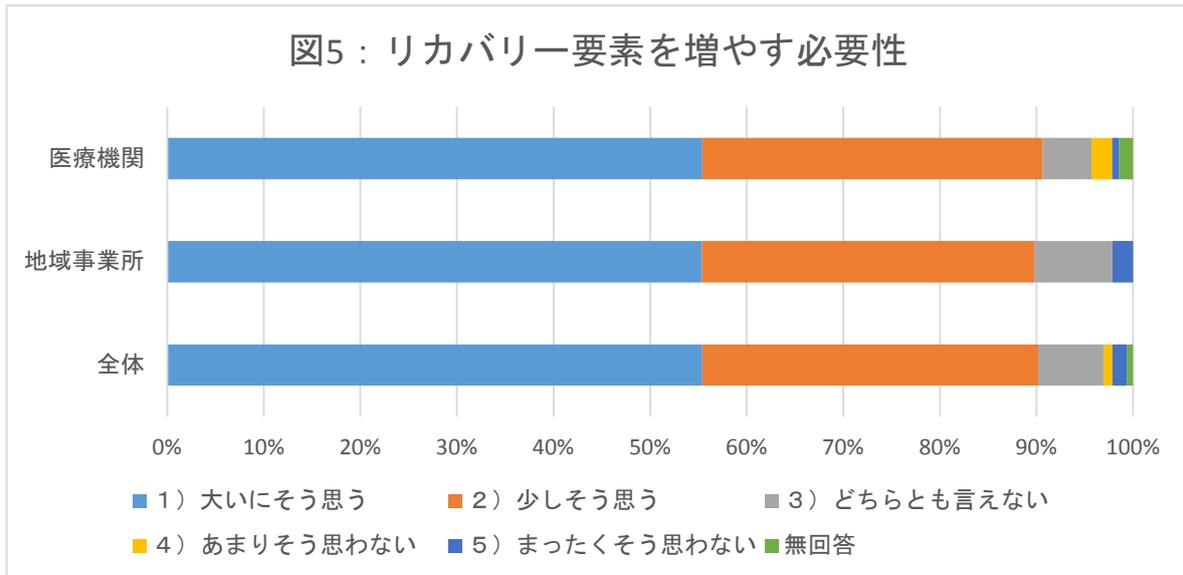


図5：リカバリー要素を増やす必要性

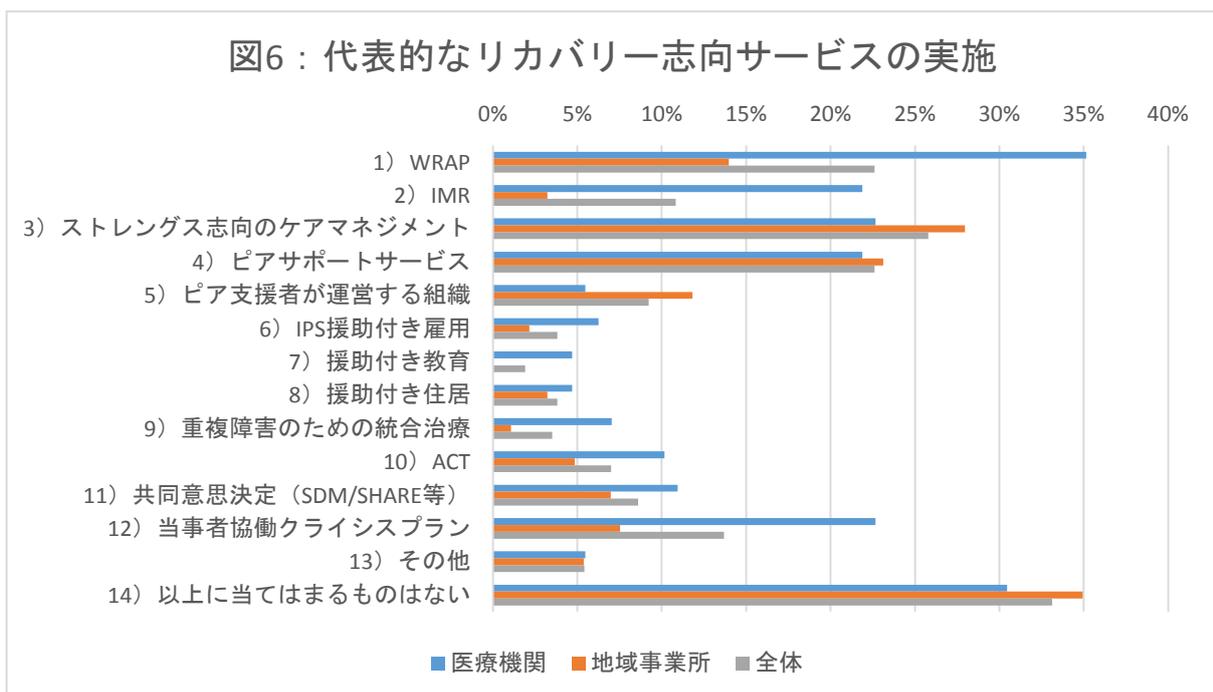


- 図4に示したリカバリー志向活動・サービスの要素6項目について、その取り組みを増やす必要性について伺った結果が上記の図5です。全体では「大いにそう思う」が57.3%、「少し思う」が36.0%となりました。

3) 代表的な「リカバリー志向活動・サービス」の取り組み

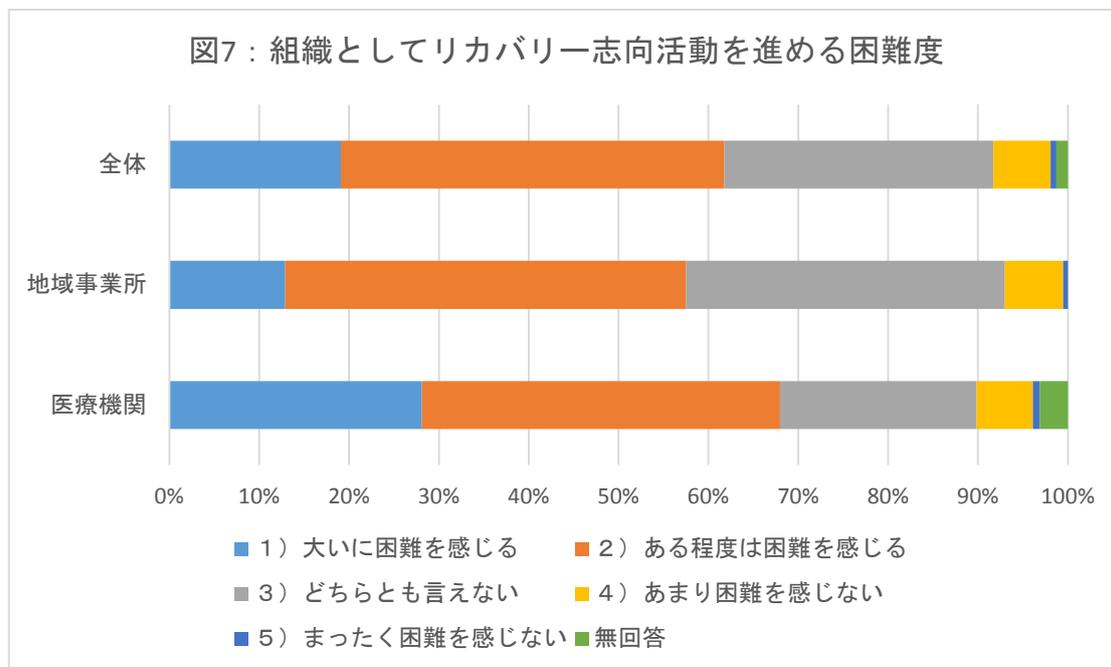
- 世界的に重視されている代表的なリカバリー志向活動・サービスの導入については、図6に示すように13項目の活動・サービスを提示し、その実施の有無について伺いました。
- 「3 ストレngths志向のケアマネジメント」が全体で25.8%、「1 元気回復行動プラン (WRAP)」と「4 ピアサポートサービス」がそれぞれ22.6%と上位を占めていました。精神科医療機関と地域事業所では、取り組まれている活動に違いがあることもわかりました。
- 全体で33.1%の機関・施設が今回提示した活動・サービスを一つも実施していないこともわかりました。

図6：代表的なリカバリー志向サービスの実施



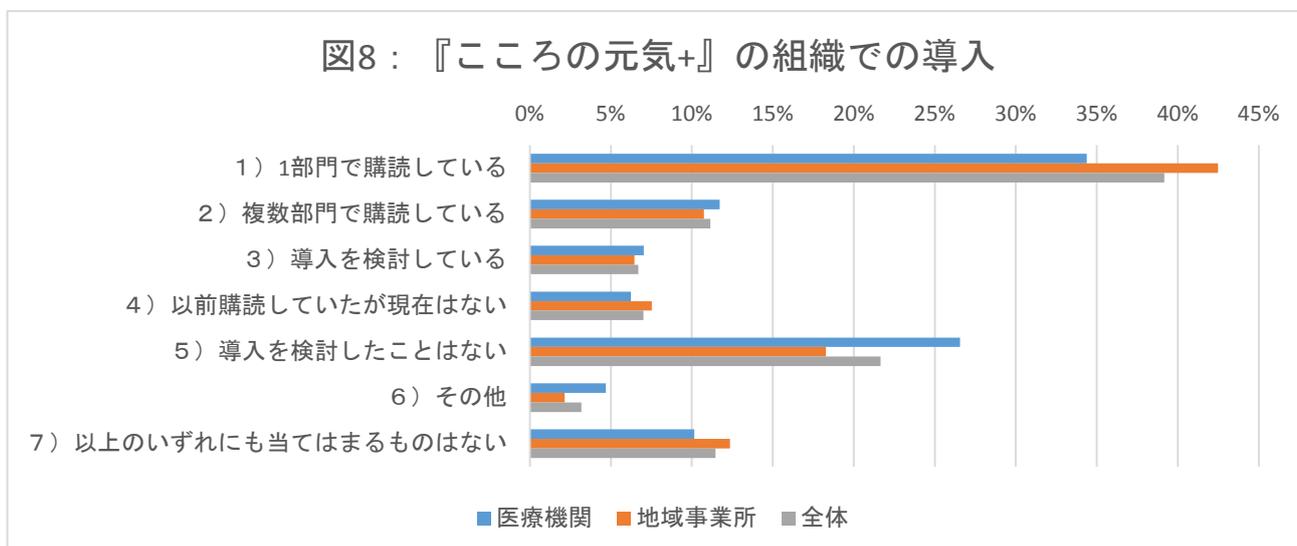
4) 「リカバリー志向活動・サービス」実施の課題、困難状況

- 各組織でリカバリー志向活動・サービスを進める上での困難度についても伺いました。図7に示すように全体では「大いに困難を感じる」が19.1%、「ある程度は困難を感じる」が42.7%で、合わせると61.8%が「困難を感じる」と回答されていました。
- 困難の内容として全体で、「リカバリー志向活動に取り組む人材の確保」が39.8%と最も多く、「リカバリー志向活動に取り組む知識・経験・ノウハウの乏しさ」が38.2%、「ピア支援者の確保」が26.1%、「リカバリー志向活動に取り組む財源の確保」が22.6%と続いていました。



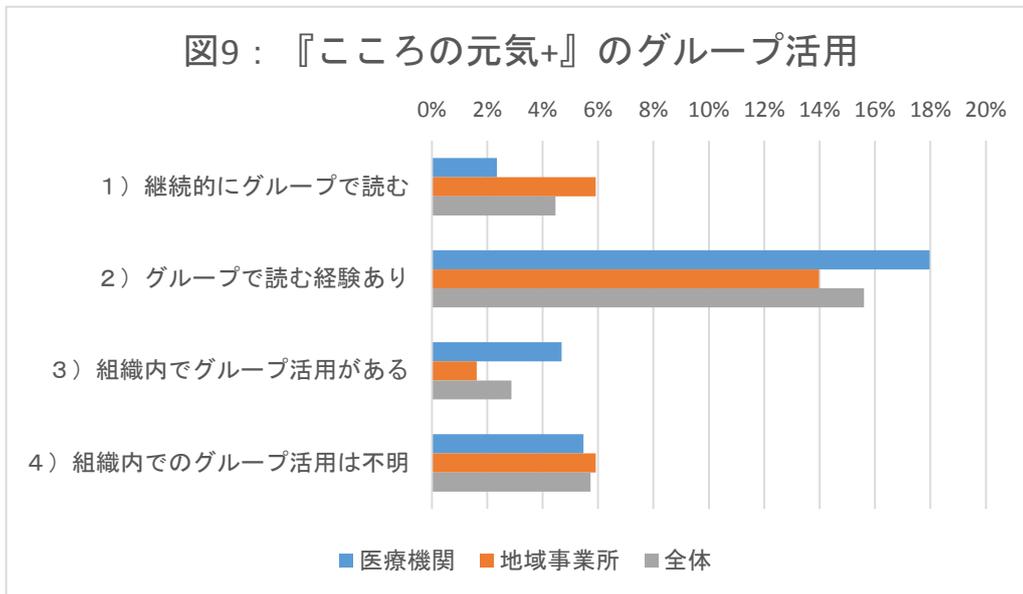
5) 『こころの元気+』の導入状況

- 『こころの元気+』は具体的なリカバリー志向活動・サービスについて情報発信をしていますが、その『こころの元気+』の組織における導入状況について伺いました。導入している組織が全体で50.3%となっていました。
- 図8で『こころの元気+』の組織での導入状況について示しています。1部門での導入が39.2%、複数部門での導入が11.1%となっていました。



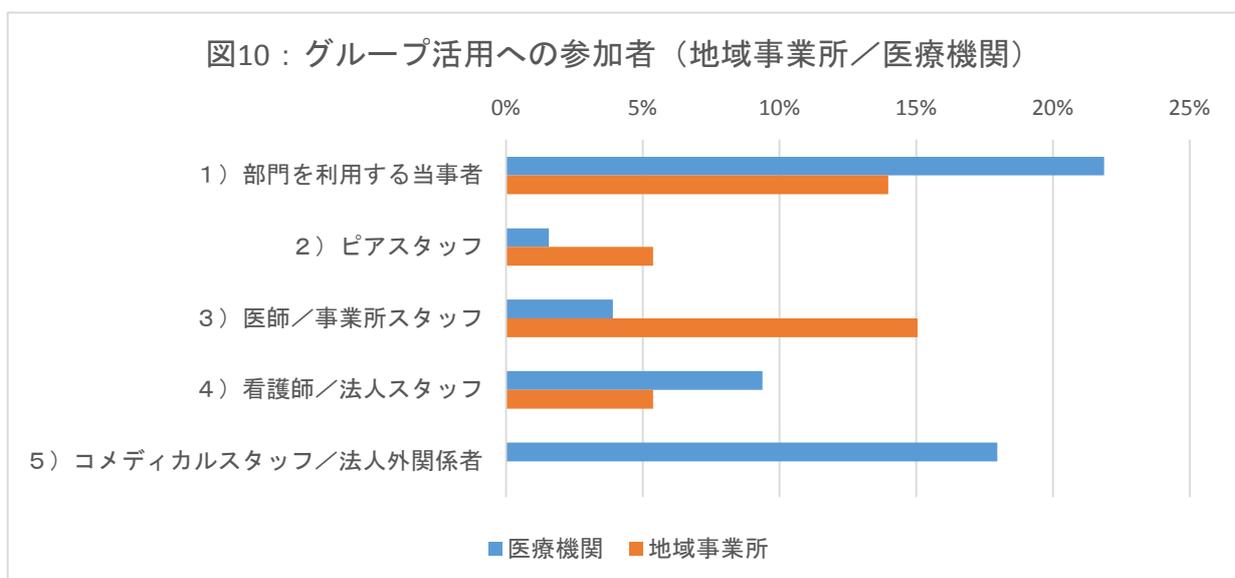
6) 『こころの元気+』のグループ活用

- 図9に示すように『こころの元気+』のグループ活用については、「継続的にグループで読んでいる」(4.5%)、「継続的ではないがグループで読んだこと、活用経験がある」(15.6%)、「組織内でグループでの活用がある」(2.9%)を含めて23.0%ありました。



7) 『こころの元気+』のグループ活用の具体的な内容

- 図10では、グループ活用への参加者について示しています。部門を利用する当事者が地域事業所で14.0%、医療機関で21.9%となっています。また、医療機関ではコメディカルスタッフの参加が多く、地域事業所では事業所スタッフの参加が多くなっています。
- 「精神科デイケアでの読み合わせ、意見交換などのグループワーク」「こころの元気+でのテーマをグループワークのテーマにしている」「当事者数名で輪読し、記事に関連する自身のエピソードを各々話してもらい共有する」「ピアの会というプログラムで読み合わせをしてみんなで考えている」など、様々な活用の実際について教えていただきました。また、各種勉強会の教材としても使われているようでした。



8) 『こころの元気+』のグループ活用に対する意見

- リハビリ志向活動・サービスを普及するために『こころの元気+』のグループ活用を進めることについてご意見を伺い、その結果をまとめたのが図11です。全体では、「1 重要・活用を強化したい」が11.8%、「重要・導入を検討したい」が24.5%となっていました。その一方、「3 重要だが直ぐに導入は困難」が51.6%を占めていました。グループ活用を進める上の困難が多くあることがうかがえます。
- 図12では、『こころの元気+』のグループ活用を進めることについて伺った結果を示しています。「1 重要・積極的に協力したい」が7.6%、「重要・協力を検討したい」が25.2%、「重要だが直ぐに協力は困難」が56.7%となっていました。前問と同様の傾向となっています。

図11：『こころの元気+』グループ活用への意見

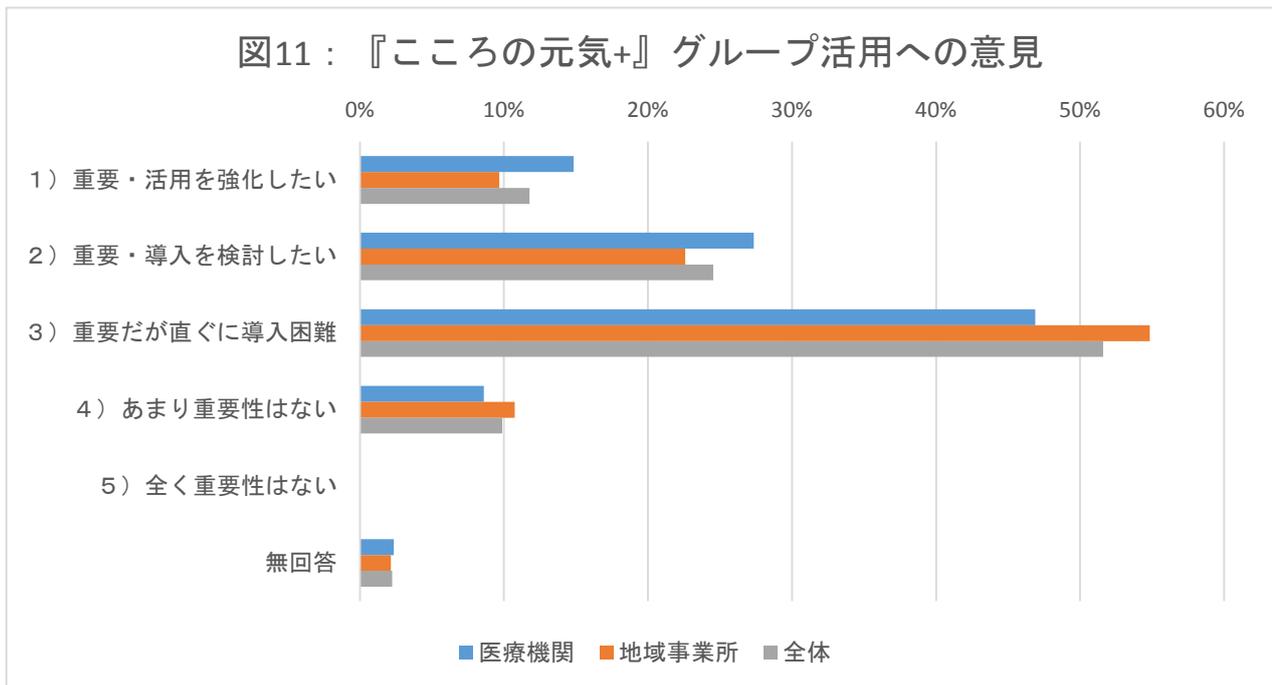
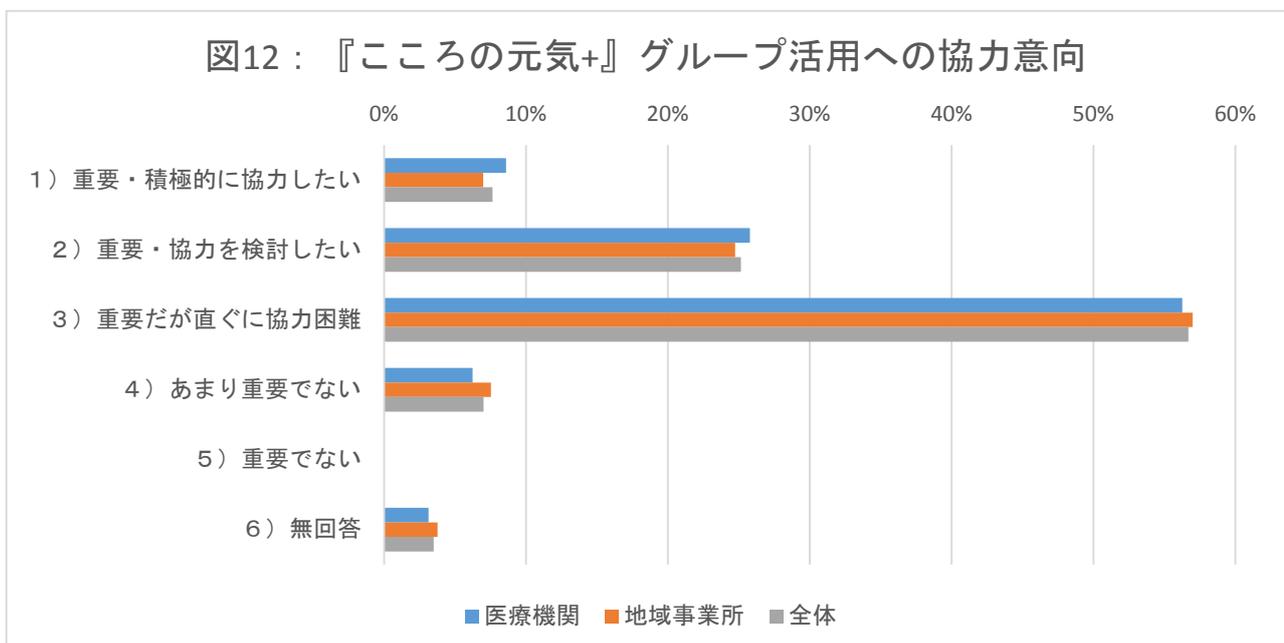
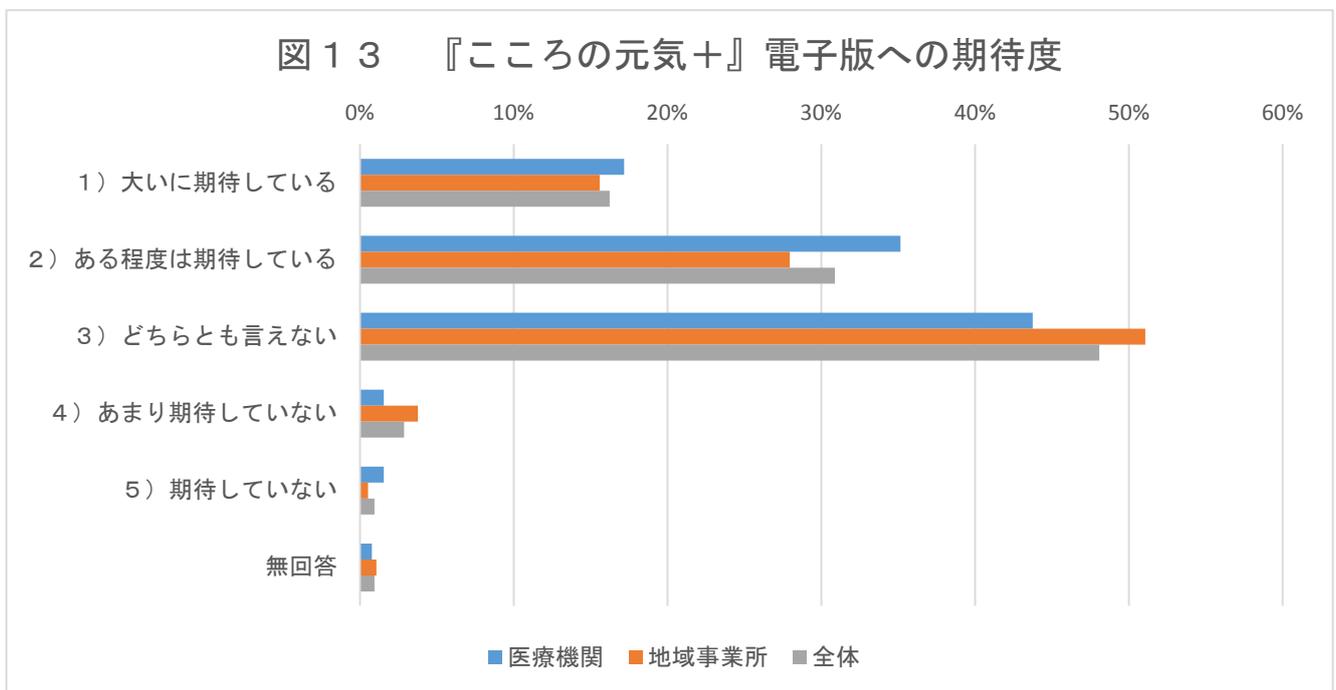


図12：『こころの元気+』グループ活用への協力意向



9) 『こころの元気+』 電子版の発刊について

- 『こころの元気+』をさらに多くの方々にお読みいただくために、2021年2月よりウェブで閲覧できる電子版を発刊しています。この電子版に対する期待度についても伺いました。全体で「大いに期待している」が16.2%、「ある程度は期待している」が30.9%となっていました。一方、「どちらとも言えない」が48.1%となっていました。
- 「期待をしている」と回答された方からは、「スマートフォンなど使用し気軽に読める人が増えること」「グループワークでも画面を共有しながら進められるのではないか」「当事者、支援者が、興味のある記事を見つけやすくなる」など、さまざまなコメントをいただきました。電子版ということで、タイムリーな情報も掲載してほしいなどのご意見もありました。
- 紙媒体のほうを好むが、多くの方に「こころの元気+」を知っていただくのに電子版は有効だというコメントも多くみられました。



4. まとめ

- ・ 調査時期が年度末、そして、調査の回答期間も1ヶ月程度ということで、回収率は限定的となりました。しかしながら、リハビリ志向活動・サービスの取り組みや『こころの元気+』の導入については少しずつ確実に広がっていることがうかがえました。
- ・ リハビリ志向活動・サービスを広めていく上での困難として、これらに取組む人材の確保、知識や経験、ノウハウの乏しさが高い割合で挙げられていました。
- ・ リハビリ志向活動・サービスについて発信する（情報提供）の媒体のひとつとしての『こころの元気+』の導入に関しては、その導入率が全体の50.3%となっていました。
- ・ 『こころの元気+』のグループ活用については、今回23.0%の機関・施設においてそれぞれの方法でグループ活用に取り組まれていることが確認できました。『こころの元気+』の記事をテーマに、話し合いや意見交換をされていることが多いようです。その一方、気軽に読めるよう共有スペースなどに『こころの元気+』を置いておくことで、一人ひとりが自分のペースで読むことができる機会を大切にしている様子も見受けられました。『こころの元気+』の活用の選択肢を増やすために、それぞれのニーズに応じた活用法を共有する機会を設けることも必要と感じました。
- ・ 『こころの元気+』電子版に対する期待についても昨年度に引き続き伺いましたが、電子版の存在を知らなかった方も多く、まずは広く周知する必要があることがわかりました。